

全国の街道地図の縮尺は2万五千分1にした。

使う側からすれば5万分1、2万分1、1万分1などもある。

5万分1では道路が近接する場合どちらの道路か区別がつかない時もある。

2万分1、1万分1は市街地などや、細かい調査記録にはいいだろうが何せ全国の地図が揃っていない。

実用的には、市街地では1万分1（国土地理院の1万分1は見にくい）で、市街地以外では、現在の2万五千分を少し拡大して2万分1地図に編集したものが見やすく使いやすい（歩き、走りのコース図）と感じている。

さて、これは地図を利用する側の意見で、作る側の考えとは違う。

各府県の教育委員会は調査した後、想定したコースを地図に落とすのだが地図の縮尺はバラバラです。5万分、2万5千分が多いですが、それをページに収めようと縮小したり、なかにはフリーハンド、ついには地図なしの報告書もあります。

これは何かと言いますと、調査方法とコースの重要度によります。

コースの位置に重きを置いていない場合、地図は小さな地図を使いますし、現在使われている国道など安易なコースを記入します。街道付近の名所・旧跡などに関心が高く街道の位置は二の次です。

古い旧版地図にない道で近年出来た道路を街道にするケースがあります。その付近を街道があるのは判っているが場所を特定できない場合に現在通行可能な道をコースにしたのでしょう。不明な場合は不明とすればいいのでしょうか、ダメなのでしょう。古地図にクネクネと曲がっている道があれば、現在の道に不自然に出たり入ったりした街道もあります。

こんな風に疑い出したら切りがない街道が多くあります。

片や市街地などで道の変遷の記録が判る個所では細かい部分図まで付けてある街道もあります。もちろん1万分1や5千分1に落とされています。

2万五千分では道路にコース図を記入するのが精一杯ですが、1万分1以上では道路から一部はみ出した個所も記入できます。

福岡から長崎まで繋がってある長崎街道があります。

そのルートを追っかけた人：河島悦子さんがいます。道具は伊能図、旧版地図、字図です。明治の旧版地図を利用するのは一般的ですが、江戸末期に歩いて実測した伊能図（3万6千分1）と現在法務局の土地登記などで使われる字図（5千分1など）で歩きながら検証した長崎街道と唐津街道の道筋。

これは信用しないわけにはいきません。